

木村工機(社長)木村恵一氏、本社・大阪市中(中央区)の営業体制は東京、大阪、愛知の主要3都市に営業本部を構える3本部制を敷く。うち名古屋営業本部(執行役員本部長)大野直輝氏、所在地・名古屋市中村区名駅3-28-12)は金沢営業所(石川県金沢市)を傘下とし、東海地区と北信越地区の9県をカバーしている。同本部の特徴は全売上高のうち産業空調分野の機器販売ウエートが大きい。2020年度も域内の製造業向けに工場用ゾーン空調機、立形ルーフトップ外調機&空調機などを多数納入しており、通期業績は前年度比プラスでの着地を見込む。21年度市場に向けては地球温暖化対策に資する冷温水式の「みず空調」の活性化とヒートポンプ(HP)技術のさらなる活用を促すことも

「みず空調」とHPの活用促す

木村工機 名古屋営業本部

換気推進の空調システムも提唱

に、感染症対策となる換気を推進した空調システムのスプレッド活動を

前年度以上に強化する。創業74年の歴史を持つ木村工機が中部地区に進出したのは1964年5月。当時、名古屋南区白雲町に「名古屋出張所」を開設したのが源流。以来、68年8月に「営業所」へ昇格し、82年8月には同市中区丸の内へ事務所を移転し、業績の安定と共に86年10月に「支店」へ昇格した。2000年代以降も着実に成長路線を歩み、15年11月にJR名古屋駅至近の現所在地へ移転。この当時の中部地区市況は都市部の再開発案件や航空産業や自動車産業に代表される域内製造業の活発な設備投資などで経済が活気づいたことに加え、JR東海のリニア中央新幹線整備計画の発表が今後の域内経済のモチベーションを高めていた経緯の中で17年7月、名古屋支店は「営業本部」へ昇格した。現在の名古屋営業本部が直轄するエリアは愛知・三重・岐阜・静岡・長野の5県。傘下に属する金沢営業所の担当エリアは石川・富山・福井・新潟の4県。中日本ブロック全体の案件に2拠点の連携によって対応している。

大野本部長は名古屋営業本部の特徴について「当社は工場・研究機関向けの『産業空調』、オフィス・大型店舗向けの『商業空調』、医療施設・学校向けの『保健空調』という3分野を中心に多様な空調システムをラインナップする。名古屋営業本部は全売上高のうち産業空調分野のウエートが大きい。これが最大の特徴と言える。大手企業や中小企業を問わず多くの製造業の工場向けに、工場用ゾーン空調機、立形ルーフトップ外調機&空調機、ツインサイクル外調機、産業空調用低外調機を提案する機会が増えた」と話す。

現状の市況感について大野本部長は「観光産業やサービス業には依然厳しいが見られるが、食品、医療関連産業、工作機械、自動車、輸送関連は総じて回復傾向。21年度には各企業がカーボンニュートラルに向けた取り組みを加速することが予想され、設備投資は増えたとみている」とプラスに捉える。その上で、名古屋営業本部の21年度の注力点については「空調機メーカーとして『みず空調』の活性化とヒートポンプ技術のさらなる活用を軸に環境にやさしく省エネで快適な空調システムの普及に取り組み。特にこのほどJIS S(日本工業規格)化された全空気式放射熱流ユニットの当社製品「誘引エアビーム」と加温、換気、空気清浄機能を組み

格した。現在の名古屋営業本部が直轄するエリアは愛知・三重・岐阜・静岡・長野の5県。傘下に属する金沢営業所の担当エリアは石川・富山・福井・新潟の4県。中日本ブロック全体の案件に2拠点の連携によって対応している。

大野本部長は名古屋営業本部の特徴について「当社は工場・研究機関向けの『産業空調』、オフィス・大型店舗向けの『商業空調』、医療施設・学校向けの『保健空調』という3分野を中心に多様な空調システムをラインナップする。名古屋営業本部は全売上高のうち産業空調分野のウエートが大きい。これが最大の特徴と言える。大手企業や中小企業を問わず多くの製造業の工場向けに、工場用ゾーン空調機、立形ルーフトップ外調機&空調機、ツインサイクル外調機、産業空調用低外調機を提案する機会が増えた」と話す。

現状の市況感について大野本部長は「観光産業やサービス業には依然厳しいが見られるが、食品、医療関連産業、工作機械、自動車、輸送関連は総じて回復傾向。21年度には各企業がカーボンニュートラルに向けた取り組みを加速することが予想され、設備投資は増えたとみている」とプラスに捉える。その上で、名古屋営業本部の21年度の注力点については「空調機メーカーとして『みず空調』の活性化とヒートポンプ技術のさらなる活用を軸に環境にやさしく省エネで快適な空調システムの普及に取り組み。特にこのほどJIS S(日本工業規格)化された全空気式放射熱流ユニットの当社製品「誘引エアビーム」と加温、換気、空気清浄機能を組み